

1971年

1月号

第190号

毎月1回 15日発行
昭和46年1月15日発行
昭和44年6月9日
第3種郵便物認可
(定価1部5円)

発行所

石岡市役所

石岡市大字石岡408番地
電話(代表)(3)1111番
郵便番号315

発行人 大和田健三郎
編集 総務部

市いしおか報

君たちはここで生まれ

ここで育ち この土地を愛し

この土地を なお よくしようと 心にきめている

——サトウ ハチロー詩集「あすは君たちのもの」より



写真 市立第一保育所の子どもたち

新しい年を迎えて



市長
大和田健三郎

山積された重点施策を積極的に推進

あけましておめでとうございませう。

昭和四十六年の新春を迎えるにあたり、皆様のご清福とご繁栄を心からお祝いたします。さて、昨年は、一九七〇年代のスタートの年であり、日本で初めて、万国博覧会が開催された輝かしい年でありました。また、反面交通戦争、公害問題等目まぐるしい明けくれでありました。

わが国の産業経済界も、世界の変動、貿易の自由化等により、苦難はありましたが、安定した進展をみることで、希望あふれる新年を迎えたのであります。

わが石岡市におきましては、市議会並びに市民の皆様のご理解とご協力をいただき、進展の一端をたどってまいりました。

重点施策として、市民福祉の向上と行政水準の向上のため、都市開発道路網の整備、学校及び教育関係施設の建設整備、住宅建設、消防署庁舎の建設及び施設の整備、社会福祉事業の推進、和原工業団地造成事業の推進等、大石岡市建設計画が、さらに、

前進することができました。これは、市民の皆様とともに喜びを申し上げ、衷心より感謝の意を表する次第であります。

特に、和原工業団地造成事業につきましては、関係各位の献身的努力によりその買収も完了することができました。今後は、関係機関と協力し、一日も早く、造成を行ない、公害のない、石岡市の発展に役立つ、企業の誘致を図りたいと存じております。

土木事業につきましては、市道整備四ヶ年計画の第三年次計画及び第四年次計画の一部繰り上げの実施により、バス道路、主要道路の舗装整備が実施され、また、老田橋の永久橋架替、農道の改良、舗装等も着々実施されております。

教育関係につきましては、まず、上池公園内に市民プールを建設し、夏には市民の体力増強と健康保持増進のため、予想以上に利用していただく、初期の目的を達することができました。さらに、石岡小学校屋内体育館の建設も順調に進捗し、完成後は、児童の体力増進とともに、社会体育施設として一般市民の利用

を期待しております。その他、学校設備、近代教育に必要なシンクロハックスを始めとした、教材、教具の整備を行ないました。

消防施設につきましては、近代消防に対応した庁舎を山王台交差点脇に建設中であり、救急業務の強化を図るため、大型救急車の購入、また、消防ポンプ自動車の購入を行ないました。

市の都市開発につきましては、すでに決められている都市開発区域整備計画によって進められていますが、さらに住みよい都市づくりをしていくために、市の行財政が総合的にしかも効率的に運営されるよう石岡市の総合計画を策定することとし、目下、石岡市総合計画審議会において、慎重なるご審議をいただいております。今春には答申が得られるものと期待しており、今後は、この総合計画のつとめ、市政を円滑に運営してまいりたいと存じております。また、この審議会から答申のあった、新都市計画の市街化区域と市街化調整区域との線引きについては、答申を尊重し関係機関とも十分連絡をとり、県知事の原案もまとも、新春早々には正式決定をみる段階となりました。

このようにして迎えました

可決された主な議案の内容は次のとおりです。

一般会計は五千六百五十三万八千円を補正

こんど補正された一般会計の予算額は、歳入歳出とも五千六百五十二万八千円で、四十五年度の予算総額は十三億二千四百五十八万八千円となりました。

国保などの特別会計も補正

国民健康保険特別会計に百四万二千元、有線放送電話事業特別会計に三十九万五千円、授産所特別会計に百二十七万六千円、農業共済事業特別会計に二百三十

三万五千円を補正し、四十五年度のそれぞれの予算総額は、国民健康保険特別会計が二億三千九百二十八万二千元、有線放送電話事業特別会計が六百五十六万六千円、授産所特別会計が千三百三十五万二千元、農業共済事業特別会計が二千七百七十九万八千円となりました。

表彰条例の制定

市政の発展に寄与した功労者及び本市公益のため金品その他を寄付した者など総合的に表彰をきめたものことです。

市議会第4回定例会

大和田市長は、昭和四十五年第四回定例会を十二月十八日市議場に招集し、一般会計補正予算案など十九議案を上程しました。

これに対して市議会では、会期二十一日までと定めて、慎重な審議を行なった結果、全議案とも原案どおり可決しました。

一般会計は五千六百五十三万八千円を補正

こんど補正された一般会計の予算額は、歳入歳出とも五千六百五十二万八千円で、四十五年度の予算総額は十三億二千四百五十八万八千円となりました。

国保などの特別会計も補正

国民健康保険特別会計に百四万二千元、有線放送電話事業特別会計に三十九万五千円、授産所特別会計に百二十七万六千円、農業共済事業特別会計に二百三十

表彰条例の制定

市政の発展に寄与した功労者及び本市公益のため金品その他を寄付した者など総合的に表彰をきめたものことです。

清掃条例の一部改正

し尿汲取料金の適正化をはかるため、し尿の容積単位を石からリットルに改めたもので、三十六リットルにつき五十円(四十円)にしました。()は旧料金

人権擁護委員を再任

十一月十五日で任期満了となった人権擁護委員に市長推選の河原西之助さん(若松)と鶴巻愼さん(木ノ地)を再任しました。



信頼され期待される議会に

市議会議長 前島雅光



昭和四十六年の石岡市は、前年までの整備を土台とし、山積された幾多の重点施策を積極的に推進し、市民福祉の向上を目ざして均衡のとれた地域開発を推進せねばなりません。

石岡市の皆様あけましておめでとうございます。昭和四十六年の輝かしい新春を迎えるにあたり、希望にあふれる四万市民の皆様とともに心からのお喜びを申し上げます。

私は昨年議長に就任以来、はじめて迎える新春だけに、一層感激を新たにし、尊厳なる市政の進展に情熱を傾ける覚悟であります。

さて、最近の石岡市は激動する政治、経済、文化などの中で、産業や所得の構造の変化も次第に進みつつありますが、さらに、この新しい時代の流れに遅れない市民生活の安定と福祉の向上を基盤に、いよいよ充実した行政を推し進めてまいりたいと思っております。

昨年は、都市開発、交通施設の整備、教育施設の整備、総合農政の推進、消防施設の強化などを重点目標として、実現に努力してまいりました。①市道の四ヶ年整備計画の完全実施、②石岡小学校屋内体

育館の建設、③市民プールの建設、④老人福祉のためのこの家建設、⑤消防ポンプの購入、貯水槽や消火栓の増設、大型救急車の購入、消防新庁舎の建設など主要なものを申し上げますが、本年度におきましては、全国的共通な問題としての都市化、工業化の傾向に対処するため、柏原工業団地の優秀企業の誘致と、これに関連する都市計画事業の推進、学校施設の充実、道路舗装の促進、駅前広場の達成、駅東口の開発、市営墓地の早期造成、市庁舎の建設、農政の推進、下水道事業など市民の要請する幾多の問題の積極的実現のため市執行部とあいまって、市民の福祉向上のため鋭意努力する所存であります。

特に昭和四十六年度は、新都市計画法による線引きが決定され、新しい市づくりに出発する年であり、さらに柏原工業団地の企業誘致に伴う諸整備の完成など極めて意義深い年であると思っております。

従いまして、市民の皆さま方のご協力なくしては、解決することは不可能であります。今年も市政発展のため、格段のご協力を切にお願い申し上げます。

し上げる次第でございます。おわりに、市民の皆さまが多幸と市のますます発展することを祈念いたしまして、年頭のごあいさつといたします。

私は、市勢の進展を図るためにはどうしても市民の皆様方に積極的に参加していただくことがいづゆる地方自治の本旨であり、市民各位の意識を具申し、それを行政に反映させることが最も肝要であると信じております。

私も今回の議長就任を契機に諸問題の達成のため議会の総意を結集して、最善の努力をばらう所存であります。なお、議会の権威向上と市民から信頼され期待される議会となるよう、さらに議員各位とともにがんばりたいと念じております。

微力ではあります。今後とも市民の皆様方の絶大なご支援ご指導をいただきながら近代都市石岡市の建設に精進する決心でありますのでよろしくお願いいたします。 終りに市民の皆様方のご健康とご繁栄をお祈りいたしまして私の年頭のごあいさつといたします。

第二回教育祭開く 教育功労者に 感謝状

市教育委員会では、さる十二月五日、市民会館で第二回教育祭を開き、教育功労者として次の方々にご感謝状を贈りました。(敬称略)

- 1 特別教育功労者
 - 高橋友之助、手塚邦彦、桜井俊郎、豊崎卓、今泉義文、山口誠太郎、高野薫、岩橋伊助、前野真一、大塚悟一、青木治郎吉、小松崎京子、岡野実、中島実、ライオンズクラブ。
- 2 教育功労者
 - (1) 教職員
 - 柴野富子、佐藤栄二、石平周助、比気武、鈴木かつ、豊崎嘉男、片岡賢子
 - (2) 学校医・学校歯科医・学校薬剤師
 - 寺門孝男
 - (3) 社会教育関係者
 - 橋本千代寿、飯塚正一、杉田隆、前島雅光、関沢元次郎、鈴木達、原田敏夫、坂本馨、高橋弘一郎、永山貴士、山本隆夫、服部こう、横田喜久子、大塚八五、高永春海、藤井寿男、山口武、小林恒吉、中村真弓、諸星武司、渡辺春陽、大久保竜石、飯田たか、高橋美能留、猪瀬てる、藤城菊麿

- 1 特別教育功労者
 - 高橋友之助、手塚邦彦、桜井俊郎、豊崎卓、今泉義文、山口誠太郎、高野薫、岩橋伊助、前野真一、大塚悟一、青木治郎吉、小松崎京子、岡野実、中島実、ライオンズクラブ。
- 2 教育功労者
 - (1) 教職員
 - 柴野富子、佐藤栄二、石平周助、比気武、鈴木かつ、豊崎嘉男、片岡賢子
 - (2) 学校医・学校歯科医・学校薬剤師
 - 寺門孝男
 - (3) 社会教育関係者
 - 橋本千代寿、飯塚正一、杉田隆、前島雅光、関沢元次郎、鈴木達、原田敏夫、坂本馨、高橋弘一郎、永山貴士、山本隆夫、服部こう、横田喜久子、大塚八五、高永春海、藤井寿男、山口武、小林恒吉、中村真弓、諸星武司、渡辺春陽、大久保竜石、飯田たか、高橋美能留、猪瀬てる、藤城菊麿

優良統計調査員など表彰

市では、さる十二月三日に統計大会を開き、長い間統計調査員として、統計行政に尽くされた次の方々を表彰しました。(敬称略)

- 市統計協議会長(二十五年以上の統計調査員として)
 - 小松崎通雄(染谷)
 - 中村定男(大谷津)
 - 藤枝 弘(東大橋)
 - 市長(優良調査員として)
 - 鈴木秀吉(東ノ辻)
 - 中沢光宣(染谷)
 - 川島 淳(東田中)
 - 太田 隆(三村)
 - 菊地平次(石川)

私のえがく これからの石岡の姿



石岡市がこれから大きく発展し、生まれ変わるとうとしているときに、市民の皆さんがどのような石岡市の未来像を心に描かれているか、各年代、各階層の皆さんから原稿をお寄せいただき、まじりましてご紹介いたします。(順不同)

高浜港を再現し、観光都市に

高浜 (小学六年)

大久保典文



ぼくは、石岡市高浜を、観光の面でもよくしようと思う。まず、てい防を利用してのサイクリングコースや、高浜のつりのしせつなどを改善したりして、もっと人があがでるようになりたい。

そこで一つの提案ですが、高浜にレジャーセンターを設けたいと思います。

それは、高浜には、そのようなしせつがないし、県全体をみても、数えるほどしかないからです。

つくる場合水田はさけて、高台につくった方がよいと思う。それはけしきがよいからです。

そのほかのことは、よくわからないので省略します。

高浜のつりも、土浦や石岡から直通のバスを運こうさせ

たり、駅の近くにちゅう車場を設けたり、道路のはばを広げたりして、もっとせん伝すれば人があがでると思う。

サイクリングコースにしても、手落ちがないように、しっかりとつくってせん伝すれば、人があがでると思う。

高浜の港を、再現して、遊覧船などを走らせれば観光都市として人があがでてくるのではない。

でも、そしてさらに道路を

筑波山、鹿島港への玄関口に

石岡警察署次長

海老沢鏗雄



わたしは石岡が好きだ。なぜなら、石岡には自然があるから。小川道や高浜道から見た筑波山などは美にすばらしい。自然のないどこかの街の人達には是非共見せてあげた

広くし、旅館をつくり、名産展などを開いて観光都市石岡市高浜を日本全国のどの人も知るようにしたい。

だからといって、悪質なことをしたり、またいいかげんなことを言ったりしたりしてせん伝することは観光都市としての石岡市高浜のはじだから、よく心得てやってほしい。

そのほか、名産品を多くつくり、間接的に石岡の高浜をせん伝したりして、もっともつと、かっぱつに市のはつてんをはかることがよい。

そして、無公害都市として自然はかきをやめ、いつまでたっても、いまの自然の野・山・湖の美しい石岡市高浜をのこしておきたいと思う。

いほどだ。石岡にはサギソウや、トキソウ、モウセンゴケスズラン、クリンソウ、ヤシオツツジがあり、縄文式土器や弥生式土器がある。ヤシリもあれば石皿もある。そして、ツツドリやカッコウがいる。

この恵まれた自然環境がわたしの心をひきつけてやまない。いま、自然がどんどん開発の名の下に破壊され、失われつつあるとき、何億年、何千万年もかかって作られたこの自然がどうにかまがりなり

にも残されているのは、県下では石岡ぐらいではなからうか。わたしはこの石岡に一生涯住みたいほどほれこんでいる。いま、この石岡の個性を生かすなら大発展間違いなしと考えている。現在の石岡は水戸、土浦の縦の線では残念ながら、谷間の街だ。土浦市石岡町とか、石岡村と悪口を言われるほど活気のない街になっている。しかし、横の線、小川、玉里、八郷の関係では断然強味がある。

将来、石岡を霞ヶ浦、潮来、鹿島港方面や八郷盆地、笠間稲荷、日光男体山方面とを結ぶ中心地として、この地の利を最大限に活用するなら一大飛躍は間違いないと信じている。小川、玉里の霞ヶ浦沿岸に湖岸道路を作り、恋瀬川沿いに八郷へ伸ばし、霞ヶ浦への入口とし、また筑波山や吾国山への登山口とすべきである。常磐線石岡駅と水戸線福原駅とを結ぶ八郷経由の国鉄路線が施設されれば文句なしだが、これは当面実現しそものないであろうから、せめて、石岡駅近くにバスターミナルを早急に設け、国鉄バスを始め、各バスの線の発着場として、バス路線を整備増強して受け入れ体制を強めるべきだ。

石岡、八郷には観光資源が山ほどある。国分寺、舟塚山古墳、墳輪、石器、土器、其塚、峰寺山、小判石、大覚寺、丸山古墳、有明松、稜線道路、上草峠、湯袋峠、筑波山、加波山、足尾山、吾国山、難台山、霞ヶ浦、恋瀬川、杉、もみじ、ふな、みかん、かき、くり、なし、わらび、ぜんまい、たらほう、山いも、きのこ、わかさぎ、しらうお、えび、こい、ふな、うなぎなど.....これらを

どしどしPRして観光開発に力を入れるべきだ。ただ、工場誘致だけでは物足りない。やたらに公害を発生させた場を誘致するよりも、この自然を大切に保存しながら観光開発で発展を図るべきではないか。現在、筑波山への登山口は土浦や筑波になって

いるが、ただちに石岡を登山口に改めるべきだ。みすみす観光客を他へ流しているのは残念至極。石岡から八郷経由で笠間稲荷へのルートも、石岡から玉里経由で霞ヶ浦へのルートも、また、鹿島港へのルートを確立すべきだ。高浜港を復活して潮来や銚子方面へのカーヘリーを出すのもよ

さらに、恋瀬川下流(六号国道右手)霞ヶ浦沿岸あたりに運動公園を作り、ボート、ヨット、水泳、陸上競技、テ

ニス、野球などが出来る施設を、そしてジェットコースターやゴンドラなどのある遊園地を、また釣場を作り家族連れに金魚やこい、ふなどを釣らせたり、動物園や植物園をも設けるほか、舟塚山古墳を含め古代住居を復元したりして古墳公園を設けるなど、多角的な目的を備えた広場を作るべきだ。そうすれば、石岡へ石岡へと人の足が向いてくる。現在の石岡は人や車の通過地になっているが、これからは人が集ってくることになろう。人や車が集るためには商店や旅館等は駐車場を設

けるべきだ。駐車場のない店は客足が減るのである。これからは客が買物や宿泊している間に、洗車したり、カッリンを補給したり出来ることが理想と考える。とにかく、石岡は自然に恵まれており、空地もまだまだ十分にある。この自然を生かし、石岡を魅力のある街として育てて行くために石岡、八郷、玉里、小川の各市町村の大同団結を望みたい。

一方に目を転じてみると、開発という名の下の山はだばえぐりとられ、川には汚泥と悪臭がただよい、魚の棲息も許さない状況を見ると、何ともやるせない気持ちになるのは私だけだろうか。できるだけ自然を損傷しない工夫を、すべての人が考えねばならないと思う。景勝に富む石岡を、公園化し、県内はもとより、他県よりも、憩いと潤いを求める人々の安息の場として、家族ぐるみ、あるいは恋人と、学校、クラスごとの遠足にと一日のんびりと余暇を楽しむ場がほしい。太陽と、緑と、空間のある都市づくりを、と

太陽と緑と空間がいっぱい

高浜(学校職員)

山口忠男



交通事故や、公害問題が、大きな話題になっている今日、生まれ、育った街、石岡を改めてみつめてみたい。石岡市は県のはば中央に位置し、西に筑波を仰ぎ、東に霞ヶ浦を望む、風光明媚な地帯に発展し、六号国道、常磐線、関東鉄道、そして、バス路線は各

市町村へと、縦横に走り、交通事情もすこぶる恵まれている。さらに常磐自動車高速道路が完成されると、ますます東京、研究学園都市、鹿島臨海工業地帯や、県都水戸、それに日立への時間的距離も一段と近くなり、石岡市の発展はより目をみはるものがあると思えます。その第一歩として、工業団地造成事業、広域構造改善事業、さらには市民の福祉に関する事業等、近代都市へと堅実な歩みが続いている。しかし、高度な発展の下にあって、数多くの問題点を残していると思えます。

また、歴史の都として、常陸国分寺、舟塚山古墳をはじめ数多くの史跡を残し、名所、旧跡をたずねては何より得難い地である石岡を、史跡の保護と価値を改めて認識するとともに、新旧の調和を考え、その上になつて、農・工・商渾然一体となつた、近代的な街づくりが必要なのではないだろうか。自然環境が重んじられ、人間が人間らしく働き生活できる街、石岡を、私は心にながめたい。

ぬるま湯から足を出せ

関川(学校職員)

飯田美津子



十年後の石岡市……

現在の私からは想像もつきませんが、現状から推して考えてみると、大差ないだろうと思えます。確かに、町には総合デパート、文化施設等はあるかも知れませんが、はたして町を構成している人間がそれらにどれだけの関心を持ち順応するかを疑問に思うから

町の運営はそこに住んでいる人々の意見によってなされるべきであるのに、現在はあまりにも一方的すぎ、その原因の一端をなしているものに私たちの無関心さがあげられます。ぬるま湯から足を出す。そして、権利の上にいる者にならぬよう、たえず社会の歩みに目を向け、身近な家庭から職場、さらに一般社会の仲間へと会話を広げていくべきであると思えます。自分の町として関心を持ち、考えるという姿勢こそが、これからの石岡の発展を導くカギとなることでしょう。

緑の中の住宅地

協同組織の商店街

仲ノ内(洋服販売業)

武石 功



それを私達の手で立派な石岡の財宝になるようにしていきたい。またこれからの私たちの生活設計は、現に各地に見られるように市外地の緑の中に求めている。

常磐線の沿線にありながらなぜ発展が遅れているのでしょうか。私なりに考えてみました。第一に農村地帯を背景としている町であること。第二に地元の人々がそを向いていないこと。魅きつけるものがないこと。第三に商法面をみても、積極的な働きかけはなく、昔からのいわば緩慢商法であること。第四に文化・教養面で密接なつながりのある文化施設の利便度が乏しいこと。

石岡を訪れて来た人々は、「石岡は安住の町のようにだ」と言う。確かに昔の城下町的要素そのままに思われるものもいたしかたのないところで、その昔の人が残してくれた名所、旧跡等の貴重な資源をそのままに、生かす事が未だ出来

宅団地を造り、人口十五万都市を実現させたいものです。

また、市中の混雑は、お互の譲り合いの精神から解消していくようにし、購買力の増加を図り、組織ある商店連合体を一層緊密強化し、他市への流出(各のうわ気心)を防ぐべく、私達青年商人の力を寄せ合い、真の建設的な意見を述べ合い、行動を実践して行きたいと存じます。

工場を誘致し、人口を倍に

守木(飲食業)

堀井 義雄



かつて、街の屋台骨をささえた数多くの商店——それが家柄に頼るのみであったためか、何十軒と姿を消していった。石岡の街並が、私の目に今はわびしく残っている。なぜなのか、思うに、店主、農地主たちがこの石岡を本当に発展させ、豊かな市にしようという心算を當日ころはらうということをしないうで、無理解、無定見のまま今日ま

求人難等の問題もありますが、これは現実的な難問も、若い力を結集して常に前向きの姿勢で取り組んで解決に努力していかなければならないことです。公害のない工業団地、緑の中の住宅団地、それに呼応する協同組織の商店街と、私達の夢は一步／＼現実に近いづいて来つつあり、又、若者の持つ理想と希望をエネルギーにかえて、最大限に發揮して、石岡市発展のために努力を続けたいと思つてます。

人口を倍に

できてしまったということなのか、または、少なからぬ市民の自分の城だけ守ればという非協力的な姿によるものなのであろうか。

市内には働く施設が少ないから、人々は朝早く石岡駅から上りに下りにと働きのでかけ、まさに石岡をベツトタウンにしている。

商店で苦心して店を飾り、品物を並べても購買力が街から分散してしまっているから商いは思うようにはいかず、あきらめてしまおうという誠に、情けない次第である。

また、こうしたことについて、指導的力量のある人も見当たらない。俺がという気持の人も、そ

れは現在の財力とか、のれんとかを振り回してのことであつて本当に石岡市の十年先、二十年先を考へて石岡を愛し勤め人、商人のためを考へ、また若い人たちの気持を理解していくという秀れた人の存在が今や本当に望ましいのである。

総社宮の祭りでも、ひよつとこ祭りでも反対はしない。私も大好きだから。しかし、こうした祭りの日々、何万人の出入があつたといわれても、金が石岡に落されていると思つたら間違ひである。

一見なか／＼のにぎわいに見えるが、市民が店先や軒下で首をだしている人が多い。また、他方面より人があつたとしても、その多くは、石岡で金を使っていない。

確かに以前は出入があれば街ももうかつたのであろうがもう時代が違うのである。

むかしのような感覚、考へ方では、今後の発展は望むべくもない。まさにこの街の時代的変貌というか、こうした変化を見据え、新たな展望と洞察を持つこと——これが石岡を現在の低迷から抜け出させ、発展させていくための至上命令であると思うのである。

それには、まず大きな工場を誘致し、現在の人口の倍ぐ

らしい勤労者が街に満ちあふれ、この人たちが昼間の流れとならなければならぬ。

そうならば、毎日／＼がそれこそ総社宮の祭り、ひよつとこ祭りのにぎわいとなり、商人の目が光り出し、今までのやり方、考へ方をかなぐり捨てざるを得なくなる。

私も石岡に五十余年住んでおり、子どもも孫も多分この石岡に住むであろう。大好きな石岡である。

市民の皆さんも打つて一丸となり、これはよいことだと思つたことは、どんなその方面にたずさわっている人たち、指導的立場の人たちに提言し、理解、考慮、実行を求めるとともに大石岡市建設に努めようではありませんか。

最後に私がいつも考へ、実現を望んでいることを提言する。

- (一) 国分寺の再興、(二) 設備浦周辺の丘陵地に大レクリエーション施設をつくる、(三) 商店主の理解による工業団地の早期整備、(四) 市民会館への道路の新設、(五) 国鉄石岡駅東口の完成、(六) 恋瀬川の多目的利用、(七) 玉里村との合併

それには、まず大きな工場を誘致し、現在の人口の倍ぐ

わが家代表で市民議会へ

三村(高校生)

幕内 宣昌



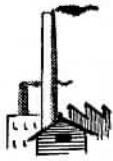
僕は今、年令十五才、言い換えれば、自分は五年間、この地石岡市に住んでいる訳であるが、この五年間を通じて、この石岡がずいぶん変わったといふことを感じる。工場がいくつか立ち並び、交通量の増加、経済面でのいろいろなこと、その他ありとあらゆることが変化している。急激な変化を見せる社会情勢、それを自分はこの石岡を通じて考えさせられる。

今後、わが石岡市はどのよう発展して行くであろうか。将来の石岡について考へて見てもおもしろいのではないかと思う。

「昭和〇年×月△日、日曜日の朝、僕は新聞を読んでいた。そこへ僕のワイフが来て言った。「あなた、今日は市民議会のある日ですよ。」「そうだ。すっかり忘れていた。」自分は急いで背広に着がえる。電気自動車に乗った。そんな形でなくとも、ずつとすば

して小鳥のさえずる森、釣人のいる川を通つて石岡市民大センターへと向かった。この時、石岡市の人口約三万、ある範囲で行政に直接民主制をとり入れたわが石岡市は、いまや日本でも有数の都市となりつつあつた。今日はその年一回の定例議会のある日である。僕は、わが家の代表としてがんばろうとはりきりながら市民大センターに向かつている訳である。間もなく市民大センターに着いた。僕は議

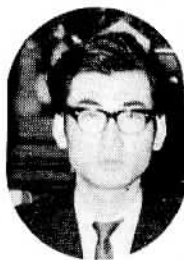
行を行なう大ホールに入ると、持ってきた原稿をまともめ、質問の準備を完了した。やがて、そくそくと市民が集まり、代表者達も勢ぞろいして、活発な質問が始まった。僕は力いっばい質問をぶつけた。代表者たちはためらいもなく、スラリと質問に答える……。やがて議会がすみ、自分は早速わが家へ帰ると、家族の者に経過を話した。家族も、自分も満足する石岡市の行政に、自分は幸福を感じるのであつた。」



らしいものになると信じている。将来の石岡市、自分はこの

月に一度市民球場で楽しく

三村(農業)
萩沼 宏積



道路を広げ共同経営にすればよいということも、だれでもわかっていながらできない。我々農家も同じである。

今はどんな小さな農家でも一家に一台、トラクターや耕うん機、乾燥機、脱穀機を持っている。

これらは、いずれも共同経営にすれば不用の物が多い。今にきつと、農家も、商店も、又工場も大型時代がくるであろう。

自分は自分なりに考えて見ることがある。

現実が本当に楽しみである。

公害を解消しながらの工場のあり方を

大砂(中学三年)
片岡 典子



激動の七十年と騒がれた年も幕を閉じ、一九七一年の夜が明けた。

昨年最大の焦点だった安保問題も自動延長され、万国博も盛況裡におわり、いろいろ

農作業はトラクターにコンバイン、消毒はスピードブレーヤー、ショッピングは乗車、食料品は、食料品の店がずらりとそろって、自分の好きな品物を選ぶように、また休みに公園へ、図書館へ、月に一度は、市民球場で野球に、テニスに、卓球に、バレーボールにと市民こそぞって楽しめるように、そして住宅は本当の休息の場所でありたいと願っている。

では、石岡はどうなるのだろうか。私なりに考えると、工場地帯、商店街、農村地帯、住宅地帯に区分されるだろうが、いずれも甲乙のつかない市政を望むものである。

な意味での関心と呼んだ。しかし、公害問題において、今なお幾多の難点をかかえている。

我が石岡市においても、公害のない工場の誘致というところが話題になっているが、公害のない工場というのは、具体的にどういうことを意味するのだろうか。

また、はたして公害のない工場などあり得るのだろうか。そのような工場があったら今日の日本において公害問題など発生していないと思う。

碁盤の目のように美しく

新聞記者
高橋 茂樹



よく工場ができれば、その市の財政は豊かになる。というのを聞く。そうすると市民は、より高度な生活を営むことができるだろう。

しかし一方では、身体が吸い込まれるような青空が、赤トンボの飛びかき風景が何年か後に太陽の光にとざされながら暗い日を送る生活に変わると私は思う。

初めて石岡駅に降りた際、駅前あたりの寂しさに郷愁を感じたのもつかの間、今では「んだ」「だっべ」と、ほととつな茨城弁が自然に口から出るようになり、ひとかどの石岡市民を自認している。

石岡の市民性について、人はさまざまに言う。

僕は素朴で世話好きで人情こまやかな石岡が好きだ。こまやかな石岡が好きな所がある(多少おつにすました所があるが)。

おろか、二十年、三十年前とさして変化がない。

一方で、石岡市民は保守的だ積極性がなくといわれるのも、一つにはこの純血性が起因している。

その石岡も今後はかなり発展しようかと市民は期待している。

数年後には常磐高速道路が完成、柏原工業団地も一層進展し、市の財政も潤い、人の流入も激しくなるとの判断からだ。だが、これはあくまで自然条件として見た場合のこと、常磐高速道路は石岡だけにインテリゲンチがでるわけではなく、人の流れもただ通過するだけかもしれない。工業団地といっても公害のない企業となれば当然限られてくる。安易な考え方は雑多な都市形態になるだけだろう。

軽工業都市を目ざすにしろ、教育文化都市を建設するにしろ、まだ白紙の石岡市にとつて、他市に自慢できる住みよいく美しい都市計画を完成させるためには、指導者に今こそ明確なビジョンと決意が必要ではないだろうか。

石岡が第二の故郷と愛着を感じ始めた最近、石岡台地に立つて碁盤の目のように大胆で美しい都市づくりをした常陸国石岡の姿が目につく。

